

花山天文台 投句箱

花山天文台を訪れた方に俳句を楽しんでいただくため、歴史館に投句箱を置いて作品を投稿頂けるようにしています。 ”京の夏の旅”(2017年7月8日～9月30日)の期間中に投句いただいた多数の作品から、花山天文台の将来を考える会の代表であり、また俳人として「氷室俳句会」を主催する尾池和夫京都造形芸術大学学長が撰者となって選句をしました。掲載させて頂いた皆さんには花山天文台の将来を考える会から記念品を送付いたします。

特選1席 夏休み自由研究天文台

谷本舞さん

選評 懐かしい感じのする自由研究という言葉に魅力を感じて選びました。懐かしいというのは、私の年齢に重ねればという意味です。自分の子どもたちが小学校の時、自由研究にはよく付き合いました。それがもし今だったら、きっと花山天文台へ一緒に出かけたに違いないと思いました。真の意味の自由に発想した研究課題を花山天文台に設定した現地を訪問し、そこで投句もして下さったことに感謝したいと思います。

特選2席 秋空のどこにいるの私の星座

馬場薫子さん

選評 秋の空は澄んでいます。京都ではそれでもあまり星がよく見えませんが、どこか星の見える空のある所へ行かれたのでしょうか。あるいはそんな星空がある土地に住んでおられるのかもしれませんが。たくさんある星にさまざまな星座の名が付けられていますが、それとは別に、作者はご自分の星座を探して空を見つめています。この句を読んで思わず私も自分の星座を今度探してみるような旅行を計画したくなりました。

秀逸

あかい雲つるべ落しの秋の空

眞鍋多恵子さん

夏の夜の星にありし日の父想う

那須俊昭さん

満月に凜とそびえるドームかな

片山絹子さん

佳作

汗の目で夢を見上げし天文台

河野民枝さん

夏の星幼き命と夢見上げ

河原尚子さん

銀漢を畏れて花山天文台

三井一夫さん

夏の空の彼方に想う星の夢

大木裕子さん

あこがれし星空めざし夏の旅

板合信男さん

空高く天文台に雲ひとつ

南部桂子さん

白銀のドームをつつむ蟬時雨

藤井照也さん

満月を見る君の瞳に月明り

福山理花さん

草いきれ花山のドーム光り立つ

北川聡一さん

子午館に秋を告げるか赤とんぼ

眞鍋正己さん

生命を花山で知るは法師蟬

山崎勝茂さん

山路来て木陰涼しき百合の花

山本幸子さん

秋の空期待ふくらむ観望会

光久道太郎さん

風さそう盗人萩や天文台

南部桂子さん

秋の風天文台に渦を巻く

藤中鑑三さん

秋の夜空にまだ見ぬ夢探す

浅賀友美さん